

第15回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



小学生の部 優秀賞 受賞作品

『ぼくにとっての宝物』

神奈川県

湘南ゼミナール たまプラーザ校

小学六年 白井 汰

ぼくにとっての宝物

湘南ゼミナール たまプラーザ校 小学六年

白井 汰 (しらい たい)

ぼくには、「宝物」がたくさんある。例えば、オリンピック選手のサインや習い事で使っているシユーズ。もの以外だと仲の良い友達などが挙げられる。だがその中で一つだけ言葉の宝物がある。それは、担任の先生が言ってくれた言葉だ。「まず、やってみる。そしてどんだん失敗してみよう。」と。この言葉は、ぼくに勇気をあたえてくれるものだ。そしてある時思い出す時が来た。

学校の体育の高飛びの授業で、百二十五センチメートルというむずかしい高さの課題があった。ぼくは、百二十センチメートルまではクリアしたけれど五センチメートルものびると難易度がはねあがる。やろうかやらないか迷っていたときに心の中から助言が聞こえる。それが先生の言葉だ。やると決め、飛ぶ。しかし失敗だ。でも何回もやるうちに「ツがつかめてきた。助走を始める位置や飛ぶときの体の姿勢である。これを意識して飛ぶこと九回目、ついに成功することができた。この成功は、やってみて何度も失敗したからこそつかみ取れたものだ。

失敗は悪いことではなく、成功につながる第一歩だとぼくは思っている。その第一歩を踏み出すためにもまずはやってみるということが大切だと感じている。

このように日々の生活の中では、先生の言葉がぼくの背中を押してくれている。「どうせできない」「や」「失敗する」などのマイナスな気持ちもプラスに変えてくれる言葉となっている。

宝物とは、宝として珍重する物品のことだ。でも、物では表すことのできないこともある。それが言葉の宝物だ。この宝物は、物とはちがって心の中に常にあり、なくなることはないのだ。

これからも「まず、やってみる」の言葉を思い出しチャレンジしていきたいと思う。